

2024年6月作成
(2024年3月末基準)

対象ファンド
【外国株式等】

 **MUFG** 三菱UFJアセットマネジメント株式会社

プロダクトガバナンスレポート

公募ファンドの運用について



CONTENTS もくじ

ごあいさつ	2
-------	---

会社体制(会社情報・各種ガバナンス体制)

経営ビジョン／プロダクトガバナンス・ポリシー	3
コーポレートガバナンス体制	4
純資産総額／会社収益	5
運用哲学／運用体制	6
バリューマネジメント活動	7
ファンド提供価値の評価・改善対応フロー	8

カテゴリごとのファンド運用状況

当レポートでご報告するファンドについて	9
01 外国株式・世界型	10
02 外国株式・世界型(円ヘッジ)	12
03 外国株式・世界型(除く日本)	13
04 外国株式・世界型(除く日本、円ヘッジ)	15
05 外国株式・北米型	16
06 外国株式・北米型(円ヘッジ)	19
07 外国株式・新興国型(複数国/地域)	20
08 外国株式・新興国型・アジア	21
09 外国株式・中国圏型	22
10 外国株式・インド型	23
11 外国株式・その他	24
12 外国REIT・世界型	25
13 外国REIT・世界型(円ヘッジ)	27
14 外国REIT・特定地域/国型	29
15 外国REIT・米国型	31
16 外国REIT・その他	32



ごあいさつ

私たちの経営ビジョン“「あなた」と「社会」の豊かな未来に貢献する”には、お客様の資産形成・資産運用に貢献したい、持続可能な社会の実現に貢献したい、という想いを込めています。

私たちは、当社が果たすべきフィデューシャリー・デューティーを常に探求していく不断の取り組みこそが、“お客様の資産形成・資産運用や持続可能な社会の実現に貢献する”ことに繋がるとの考えから、フィデューシャリー・デューティーを当社従業員に求められる思考様式・行動様式として位置づけ、全従業員でこれに取り組んでいます。

商品・サービスの更なる向上に向けた取り組みの進捗状況や、社員研修によるお客様本位の姿勢の定着度合いなどをモニタリングするため、フィデューシャリー・デューティー推進委員会を定期的で開催しています。

フィデューシャリー・デューティー推進委員会の傘下に、お客様にご満足いただける投資成果の提供を目指して、社内における取り組みの状況について包括的にモニタリングを行う「プロダクトガバナンス・サブコミッティ」を設置し、社外取締役など外部目線も取り入れた商品・サービスの品質改善に取り組んでおります。

当レポートは、当社のプロダクトガバナンス態勢についてご説明することに加えて、プロダクトガバナンスの視点で、当社が設定・運用する公募ファンドについて、お客様にコストに見合うリターンを提供できているか、商品性に合致した運用が継続可能か等を定期的に検証し、個別ファンドごとに品質管理を行った結果をご報告するものです。

お客様や社会が求める未来は、価値観や時代などに応じて変化しますが、私たちは、いつの時代も資産運用を通じてより良い未来づくりにアセットマネジメント会社として貢献してまいりたいと考えております。

引き続き、三菱UFJアセットマネジメントをご愛顧賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

取締役社長
横川 直

経営ビジョン／プロダクトガバナンス・ポリシー

当社が投資信託を通じ、お客さまの大切なご資金をお預かりするという役割の重要性と、社会に果たすべき責任を踏まえ、当社の“社会における存在意義”を定義した「経営ビジョン」を定めています。経営ビジョンを企業活動の拠り所としながら、特に投資信託をご活用いただくお客さまの目線に立った商品・サービスの提供・品質向上に向けて重視する事項を「プロダクトガバナンス*・ポリシー」として定め、お客さま本位の業務運営に取り組んでいます。

*「プロダクトガバナンス」とは、お客さまへ良質な商品（プロダクト）・サービスを提供するために、商品の組成・運用において適切な運営・モニタリング・品質管理を行うことを指します。

経営ビジョン

社会においてこうありたいという第三者的な視点に立ち、資産運用を社会インフラのひとつとして根付かせ、資産運用の拡大と共に成長していくとの想いを経営ビジョンとして策定しています。

「あなた」と「社会」の豊かな未来に貢献する

わたしたちは、資産運用を通じて「あなた」と「社会」をつなぎ、より良い未来に貢献します。

三菱UFJアセットマネジメントは、プロフェッショナルとして、お客さまの大切なご資金を運用する資産運用会社です。わたしたちの「経営ビジョン」には、お客さまの資産形成・資産運用に貢献したい、持続可能な社会の実現に貢献したい、という想いが込められています。

プロダクトガバナンス・ポリシー

プロダクトガバナンスにおいて、お客さまの目線を重視する考え方のもと、大切にしていること、重視していることを「商品性」「運用管理」「開示」の3つの側面からポリシーとして制定し、更なる品質向上に取り組んでいます。



商品性

現在および将来、当社の投資信託を保有いただくお客さまのニーズに沿った最適な商品の組成・提供を目指します

●提供価値（ファンドの目的・特色）の明確化



運用管理

お客さまにご負担いただくコストに見合うリターンを確保できているかモニタリングすることにより、投資信託を通じた提供価値の維持を目指します

- 信託報酬（運用管理費用）等控除後の運用成果のモニタリングを徹底
- 運用成果の追求に向けた取組みの徹底
- ファンドの目的・特色が十分提供できていない場合、適時適切に対応



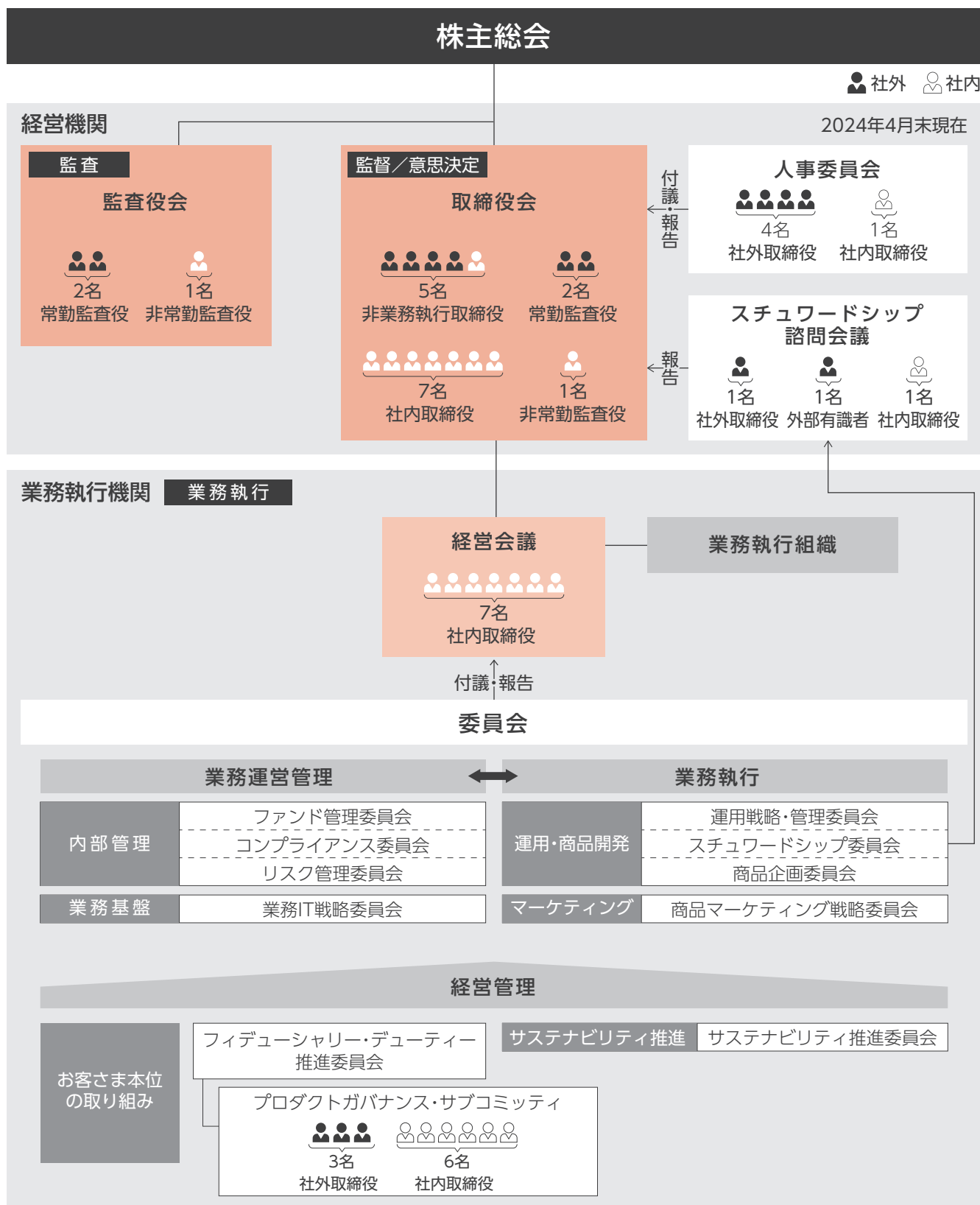
開示

お客さまの投資判断に必要な情報をご理解いただきやすく提供することを目指します

- 正確な情報をわかりやすく提供
- 様々な手段・方法で、タイムリーに情報を提供

コーポレートガバナンス体制

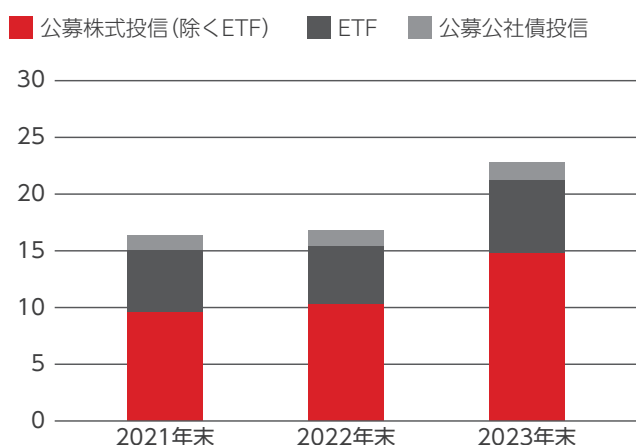
適切なプロダクトガバナンスには、適切なコーポレートガバナンス体制が必須条件と考えております。当社では経営の監督・意思決定を行う取締役会と、それを監査する監査役会のもと、経営会議傘下で業務執行に当たっています。外部目線の導入が特に必要と考える会議体には、社外取締役・外部有識者に参加いただき、コーポレートガバナンスの高度化に努めています。



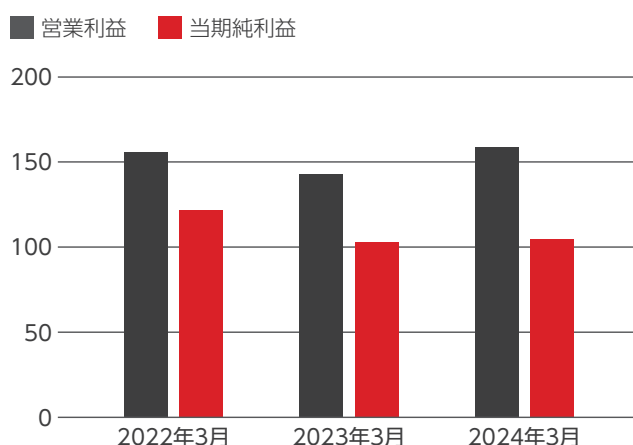
純資産総額／会社収益

ファンド運営の前提となる会社の継続性に関しまして、当社ファンドへのお客さまからのご支持に加えて資産運用の浸透・拡大も受け、2023年末時点の当社公募投資信託純資産総額は22.8兆円となりました。また、収益状況は安定的に推移しております。

当社公募投資信託純資産総額の推移(兆円)



当社収益状況の推移(億円)



TOPICS

①バリューマネジメント統括専担部署の新設

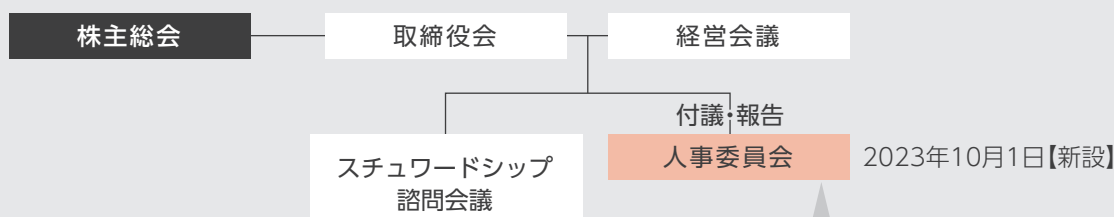
お客さまに提供している商品(ファンド)の品質管理を更に強化していくため、2024年4月にバリューマネジメント(ファンド提供価値の維持・向上への取り組み)を統括する専担部署を新設しました。ファンドの運用品質向上・改善、当レポートの作成などについて、運用・商品担当部署の運営をサポートするとともに、進捗管理のフォローを通じ、プロダクトガバナンス態勢強化を行ってまいります。

②人事委員会の設置

お客さまにより信頼される資産運用会社を目指し、2023年10月に取締役会の諮問機関として新たに「人事委員会」を設置しました。委員会は構成員の過半数を独立社外取締役(外部人材)とし、第三者目線からの意見に基づき、当社経営層のサクセッションプラン*の策定、選任プロセスの透明性確保を図ってまいります。

*企業における後継者の要件定義や育成計画

組織概要



01 委員構成 | 3名以上かつ、その過半数を独立社外取締役に構成

02 審議事項 | 社長および役付役員の
①指名(選任・解任)に関する事項 | ②後継者計画に関する事項

運用哲学／運用体制

当社の運用プロフェッショナルが、付加価値の創造、的確なリスク管理、規律ある運用プロセスなどの運用哲学に基づき、投資いただいているお客さまに最良の投資成果をお届けできるように努めています。また運用部門では、組織的で再現性の高い運用体制を構築し、商品の設定から償還まで、お客さまにクオリティの高い商品を継続的に提供できるように、これまで別部門にあった商品開発機能を運用部門内に設置（2024年4月1日付）しました。更にサステナブル投資の観点から社会課題解決に資するスチュワードシップ活動や、テクノロジーを活用した競争力ある効率的な取引執行に取り組むなど、お客さまにご満足いただける投資成果を安定的かつ継続的に提供することを目指しています。

運用哲学

01 付加価値の創造

最良の運用成果を得るためには、徹底した調査・分析と適切な運用判断による付加価値の創造が必要です。私たちは、徹底した情報収集、詳細な分析、適切な判断を通じて付加価値の獲得を目指します。

02 的確なリスク管理

運用においては、意図したリスクを取り、意図しないリスクを排除することが必要です。私たちは、的確なリスク管理を実践し、効率的に付加価値の獲得を目指します。

03 規律ある運用プロセス

規律と一貫性のあるプロセスが、運用の質的向上につながります。私たちは、チームワークを重視し、かつ「Plan→Do→See」に裏打ちされた規律あるプロセスによって、運用の一貫性を確保します。

04 適切な情報開示

お客さまに信頼していただきながら、ご期待に沿った資産運用を行うためには、情報の開示が不可欠です。私たちは、運用の状況と運用に対する考え方を適切にお伝えすることにより、お客さまの信頼獲得を目指します。

運用体制

(2024年4月末現在)

運用部門 部門長 高鍋 朗 運用経験年数 30年					
	運用部	運用責任者 (運用経験年数)	運用対象	FM人員 (運用経験年数)	担当運用資産* (十億円)
運用担当	戦略運用部	加納 良樹 (27年)	主としてバランス型ファンド・計量的手法等を利用したファンドの運用	19名 (平均13年)	527
	株式運用部	森 博 (27年)	主として内外株式の運用	42名 (平均18年)	941
	債券運用第一部	氏原 圭作 (35年)	主として内外債券の運用	9名 (平均21年)	982
	債券運用第二部	道下 哲也 (22年)	主として内外債券の運用	22名 (平均11年)	2,963
	インデックス運用部	石崎 健 (17年)	主として全資産のインデックス運用	27名 (平均8年)	24,495
	外部委託運用部	笹井 泰夫 (28年)	主として外部運用会社との提携ファンドの運用	30名 (平均9年)	7,280
	運用企画部	運用に関する施策企画、運用モニタリングおよびファンドマネジャーのパフォーマンス評価			
	サステナブル投資推進部	サステナブル投資に関する業務および施策企画			
	トレーディング部	有価証券等の発注およびファンド余資運用			
	商品開発部	投資信託等の企画立案および商品開発・分配金・償還・品質維持・品質改善管理、商品関連契約			

* 国内籍の公募および私募投信、投資一任を対象に集計

バリューマネジメント活動

プロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、ファンド提供価値の維持・向上へ継続的に取り組んでいます(バリューマネジメント活動)。運用・商品担当部署においてはファンドの各種運営とともに、ファンドの品質管理・改善を自律的に行っております。それに加え、バリューマネジメント統括部署においてファンド提供価値の評価を行い、必要に応じて運用あるいは商品性の改善を促すなど、お客さまの信頼に応える商品提供を心掛けております。

お客さまの信頼に応える商品提供

バリューマネジメント活動 (ファンド提供価値の維持・向上への取り組み)

運用・商品担当部署による 自律的な品質管理

運用状況のモニタリング・
商品性の確認



日常的な品質改善

バリューマネジメント統括部署が 指揮する組織的な品質管理

ファンド提供価値の評価



要改善ファンドの改善*・
フォローアップ

*改善策の立案・実行はバリューマネジメント統括部署からの指示に基づき、運用・商品担当部署が行います。



ファンド提供価値の評価・改善対応フロー

当社が設定・運用する公募ファンド(MRF、単位型を除く)を対象に、ファンド提供価値の評価を行います。その結果、運用や商品性に改善を要すると考えられるファンド(要改善ファンド)については改善策を策定します。ファンド提供価値の評価・改善対応は以下のフローに基づいて行っており、当レポートでは、評価結果および改善対応の状況についてご報告いたします。

STEP 01 パフォーマンス評価

- 当社が設定・運用する公募ファンド(MRF、単位型を除く)について、コスト控除後のリターン*¹を用いて、当社ファンドと同じカテゴリ*²に所属する競合他社ファンドのなかでの相対的な順位を確認します。
- 競合他社ファンドとの比較は5年、10年、設定来などの複数期間*³で行います。

*1 お客さまにご負担いただくコストに見合うリターンを確保できているか確認するため、分配金再投資換算の基準価額を使って信託報酬(運用管理費用)等控除後のリターンを算出します。

*2 恣意性を排除するため、外部評価機関であるMorningstarによるモーニングスター・カテゴリを使用します。モーニングスター・カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

*3 インデックスファンドについては、特定指数と同じ値動きを目指す商品性であること等から、対象指数との期間1年の連動性も含めて評価します。

STEP 02 ファンド提供価値の評価

- STEP1のパフォーマンス評価において、パフォーマンスの相対順位が一定水準以下となる競合他社比で劣後しているファンドについて、多角的な視点からより詳細な分析を行います。
- パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性などの分析を行い、お客さまにご負担いただいたコストに見合うリターンが提供できているか、商品性に合致した運用が継続可能かなどの観点からファンド提供価値を評価します。

STEP 03 要改善ファンドの特定・改善策の検討

- STEP2の分析により、運用や商品性に改善すべき課題が特定された場合には、ファンド提供価値の向上を目的として、当該課題を解決すべく改善策を検討します。

STEP 04 要改善ファンドのフォローアップ

- STEP3で策定した改善策が効果を発揮し改善が図られているかモニタリングを行い、お客さまに十分な価値提供ができているか確認できるまでフォローアップを継続します。
- 改善策やその後の進捗状況については、当レポートでお客さまに開示します。

当レポートでご報告するファンドについて

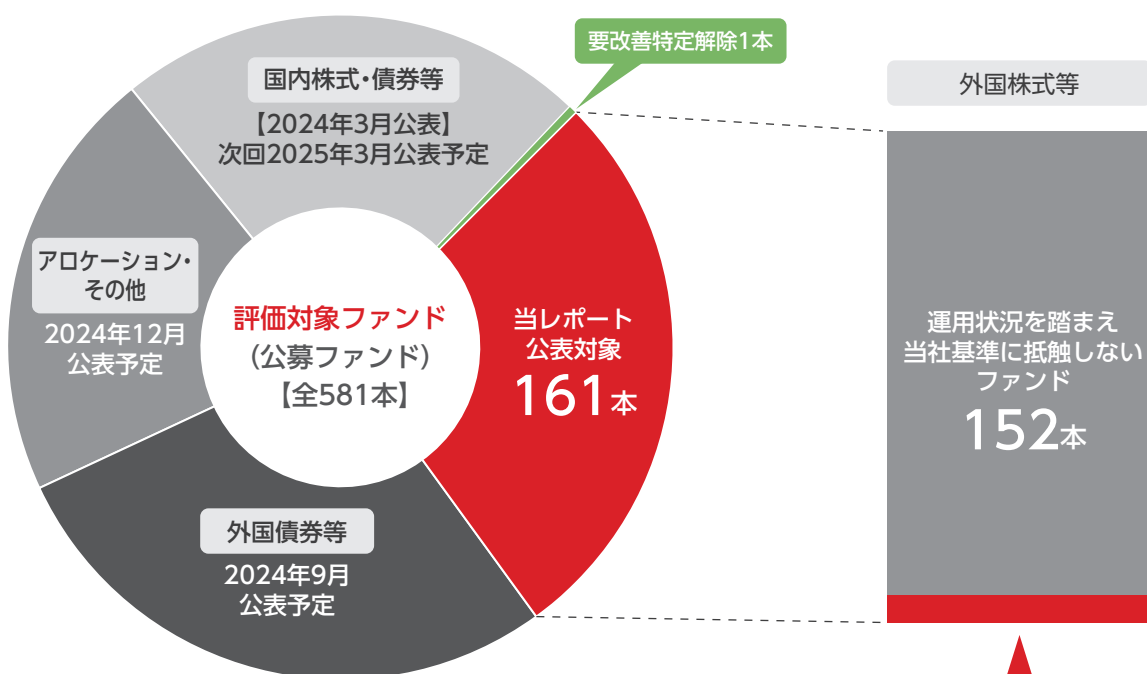
当レポートでは評価対象ファンドを「国内株式・債券等」、「外国株式等」、「外国債券等」、「アロケーション・その他」の4つに分類し、各分類ごとに順次公表いたします。今回は「外国株式等」に分類する161本のファンドを対象とし、評価した結果、以下9本のファンドについて要改善ファンドに該当すると判断いたしました。分析結果や改善に関する取り組み状況については、モーニングスター・カテゴリ別に次ページからご説明いたします。

なお、開示済みの要改善ファンドのうち、要改善ファンドへの特定を解除したファンドがございます。当該ファンドについては別途レポートを公表しておりますので詳細はそちらをご覧ください。

※「国内株式・債券等」、「外国株式等」、「外国債券等」、「アロケーション・その他」の分類はモーニングスター・カテゴリを基に当社が行います。モーニングスター・カテゴリで外国株式、外国REITに属するファンドを「外国株式等」に分類しています。

※各ファンドの分析はモーニングスター・カテゴリ内における比較により行います。各ファンドの所属カテゴリや公表予定時期については当社ホームページ内[プロダクトガバナンスレポートページ](#)上のエクセルファイルをご確認ください。

※モーニングスター・カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。



要改善ファンド 9本

ファンド名	設定日	掲載ページ
三菱UFJ <DC>海外株式オープン	2001/12/07	14
三菱UFJ 米国配当成長株ファンド<為替アクティブヘッジ>(愛称:ザ・レジェンド)	2013/12/09	18
ワールド・リート・オープン(1年決算型)	2008/11/04	26
ワールド・リート・オープン(資産成長型)(愛称:ワールド・リートN)	2013/12/11	26
ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2004/07/02	26
ワールド・リート・オープン(資産成長型)為替ヘッジあり(愛称:ワールド・リートヘッジN)	2017/09/12	28
ワールド・リート・オープン(毎月決算型)為替ヘッジあり	2017/01/20	28
国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型)円コース(毎月決算型)	2013/09/20	30
国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型)為替ヘッジなしコース(毎月決算型)	2013/09/20	30

01 外国株式・世界型

対象ファンド数 当社47ファンド/業界全体457ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド47本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
35.2	12.7	15.8	10.7	1.52

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本を含む世界の主要先進国の株式を主な投資対象とする。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	<DC>ベイリー・ギフォード ESG世界株ファンド(愛称:<DC>ポジティブ・チェンジ)	2020/08/31	18	■
2	<DC>ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド	2019/04/05	243	■
3	eMAXIS Neo 遺伝子工学	2018/08/06	22	■
4	eMAXIS Neo ウェアラブル	2019/05/28	13	■
5	eMAXIS Neo 宇宙開発	2018/08/06	60	■
6	eMAXIS Neo クリーンテック	2021/05/07	24	■
7	eMAXIS Neo コミュニケーションDX	2022/03/04	4	■
8	eMAXIS Neo 自動運転	2019/05/28	112	■
9	eMAXIS Neo 水素エコノミー	2022/03/04	14	■
10	eMAXIS Neo 電気自動車	2021/05/07	38	■
11	eMAXIS Neo ドローン	2018/12/03	16	■
12	eMAXIS Neo ナノテクノロジー	2018/12/03	31	■
13	eMAXIS Neo バーチャルリアリティ	2018/12/03	98	■
14	eMAXIS Neo フィンテック	2019/05/28	17	■
15	eMAXIS Neo ロボット	2018/08/06	24	■
16	eMAXIS Slim 全世界株式(3地域均等型)	2018/04/03	136	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・世界型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	当社HP
17	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	2018/10/31	29,291	■
18	GRANNEXT エネルギー	2021/01/19	110	■
19	GRANNEXT テクノロジー	2021/01/19	167	■
20	GRANNEXT フード	2021/01/19	61	■
21	GRANNEXT ヘルスサイエンス	2021/01/19	73	■
22	GRANNEXT モビリティ	2021/01/19	99	■
23	MAXIS 全世界株式(オール・カントリー) 上場投信	2020/01/08	457	■
24	外国株式アクティブファンドセレクション(ラップ専用)	2019/01/28	32	■
25	グリーン・テクノロジー株式ファンド(為替ヘッジなし)〈愛称:グリーン革命〉	2021/06/01	51	■
26	グローバル株式インカム(毎月決算型)	2005/11/11	48	■
27	グローバル・スマート・イノベーション・オープン(年1回決算型)〈愛称:iシフト〉	2015/12/16	164	■
28	グローバル・スマート・イノベーション・オープン(年2回決算型)〈愛称:iシフト〉	2015/12/16	296	■
29	グローバル・ヘルスケア&バイオ・オープン Bコース(為替ヘッジなし)〈愛称:健太〉	2000/07/28	106	■
30	グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド(愛称:健次)	2004/02/27	2,462	■
31	サイバーセキュリティ株式オープン<隔月決算型>(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型	2024/03/28	0.1	■
32	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)	2017/07/13	3,689	■
33	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型	2021/01/21	666	■
34	世界メディカル関連株式オープン(愛称:医療革新)	2014/09/08	121	■
35	先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型)	2016/02/09	306	■
36	先進国好配当株式ファンド(年2回決算型)	2016/02/09	58	■
37	つみたて全世界株式	2020/03/06	166	■
38	ベイリー・ギフォード インパクト投資ファンド(愛称:ポジティブ・チェンジ)	2019/06/17	1,388	■
39	ベイリー・ギフォード インパクト投資ファンド(予想分配金提示型)〈愛称:ポジティブ・チェンジ〉	2021/04/06	275	■
40	ベイリー・ギフォード世界成長企業戦略/SMT. LN外国投資証券ファンド(愛称:クロスオーバー・グローース)	2021/09/13	549	■
41	ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド(愛称:ロイヤル・マイル)	2019/01/31	873	■
42	ベイリー・ギフォード世界長期成長株ファンド(予想分配金提示型)〈愛称:ロイヤル・マイル〉	2021/01/19	113	■
43	三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド(愛称:ブルーゴールド)	2007/07/27	50	■
44	モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン<隔月決算型>(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型	2023/11/30	2	■
45	モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジなし)	2012/02/17	3,172	■
46	モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型	2020/10/21	1,003	■
47	ワールド・ビューティー・オープン(為替ヘッジなし)	2017/07/31	243	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。
各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・世界型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

02 外国株式・世界型(円ヘッジ)

対象ファンド数 当社13ファンド/業界全体127ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド13本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
16.3	1.0	7.6	6.0	1.81

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本を含む世界の主要先進国の株式を主な投資対象とし、原則として為替ヘッジを行う。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	グリーン・テクノロジー株式ファンド(為替ヘッジあり)〈愛称:グリーン革命〉	2021/06/01	40	■
2	グローバル・スマート・イノベーション・オープン(年1回決算型)為替ヘッジあり(愛称:シフト(ヘッジあり))	2017/03/03	18	■
3	グローバル・スマート・イノベーション・オープン(年2回決算型)為替ヘッジあり(愛称:シフト(ヘッジあり))	2017/03/03	37	■
4	グローバル・ヘルスケア&バイオ・オープン Aコース(為替ヘッジあり)〈愛称:健太〉	2000/07/28	15	■
5	グローバル・ヘルスケア&バイオ・ファンド(為替ヘッジあり)〈愛称:健次(ヘッジあり)〉	2016/11/25	56	■
6	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジあり)	2017/07/13	743	■
7	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型	2021/01/21	88	■
8	先進国好配当株式ファンド(3ヵ月決算型) 為替ヘッジあり	2017/02/21	1	■
9	先進国好配当株式ファンド(年2回決算型) 為替ヘッジあり	2017/02/21	1	■
10	モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン<隔月決算型>(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型	2023/11/30	0.1	■
11	モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジあり)	2012/02/17	653	■
12	モルガン・スタンレー グローバル・プレミアム株式オープン(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型	2020/10/21	55	■
13	ワールド・ビューティー・オープン(為替ヘッジあり)	2017/07/31	37	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・世界型(円ヘッジ)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

03 外国株式・世界型(除く日本)

対象ファンド数 当社17ファンド/業界全体158ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド17本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド1本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
40.4	19.2	18.2	12.5	0.89

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本を除く世界の主要先進国の株式を主な投資対象とする。

当社ファンド一覧(網掛けは要改善ファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	eMAXIS Slim 先進国株式インデックス	2017/02/27	6,980	■
2	eMAXIS Slim 全世界株式(除く日本)	2018/03/19	4,539	■
3	eMAXIS 先進国株式インデックス	2009/10/28	952	■
4	eMAXIS 全世界株式インデックス	2010/07/20	460	■
5	MAXIS 海外株式(MSC Iコクサイ)上場投信	2010/11/22	204	■
6	海外株式セレクション(ラップ向け)	2017/03/27	436	■
7	世界資源株ファンド	2006/01/20	32	■
8	つみたて先進国株式	2017/08/16	2,275	■
9	ファンド・マネジャー(海外株式)	2007/10/31	0.1	■
10	三菱UFJ DC海外株式インデックスファンド	2006/05/15	2,291	■
11	三菱UFJ <DC>海外株式オープン	2001/12/07	176	■
12	三菱UFJ <DC>外国株式インデックスファンド	2001/12/05	483	■
13	三菱UFJ DC先進国株式ESGリーダーズインデックスファンド	2021/10/29	20	■
14	三菱UFJ DC年金インデックス(先進国株式)	2018/09/26	325	■
15	三菱UFJ 海外株式オープン	2000/08/11	29	■
16	三菱UFJ 外国株式インデックスファンド	2004/06/22	200	■
17	ラップ向けインデックス f 先進国株式	2021/04/16	189	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・世界型(除く日本)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

三菱UFJ <DC>海外株式オープン

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

<https://www.am.mufg.jp/fund/928204.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)をベンチマーク(運用成果の目標基準)とし、中長期的に同指数を上回る投資成果を目指します。
- 外国株式マザーファンドを通じて、主に日本を除く世界主要国の株式に投資します。外国株式マザーファンドの運用の指図に関する権限は、ブラックロック・インベストメント・マネジメント(UK)リミテッドに委託します。
- 企業訪問を含めた独自の調査に基づくアクティブ運用を行います。超過収益の源泉は、地域配分・銘柄選定の双方におきます。地域配分は、マクロ経済、市場・業種・個別銘柄の動向等の調査・分析を総合的に勘案し決定し、銘柄選定の基準としては、経営資源の効率的活用の視点を重視します。
- 原則として、為替ヘッジは行いません。

2 投資成果(運用成績)の悪化要因

- 運用にあたっては、持続可能なビジネスモデル、健全な財務体質、積極的な配当政策などに着目し、中長期的に指数を上回る投資成果を目指しましたが、下表に記載の運用期間において、カテゴリ平均やベンチマークを下回る投資成果となりました。
- 運用手法の特性上、ベンチマークよりも保守的な銘柄構成となる傾向が強く、指数の大幅な上昇に追従できない局面が発生したことにより、ベンチマークを下回る結果となりました。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 市場環境にもよりますが、中長期では外国株式市場全体の上昇による恩恵を十分に享受できない懸念があることから、中長期でベンチマークを上回ることが出来るよう、運用手法や運用戦略の改善を模索してまいりました。
- 運用改善にあたっては運用委託先の変更も視野に入れ、多くの運用会社を調査した結果、過去の運用実績などの定量面に加え、運用プロセス、運用体制、現地運用者との面談などを通じた定性面の調査結果を十分考慮し、最終的に2024年8月26日よりJPモルガン・アセット・マネジメント(UK)リミテッドへ委託先を変更することを決定いたしました。
- 委託先の変更後は、超過収益の源泉を主として銘柄選択におき、独自の企業調査に基づくボトムアップの銘柄選択でアクティブ運用を行い、中長期では特定のファクターに偏らない運用を目指します。銘柄選択にあたっては、長期の企業収益予想に基づくバリュエーション(株価評価)モデルを用います。
- また、委託先変更とともに、運用管理費用(信託報酬)を0.055%(税込み)引き下げます。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、外国株式・世界型(除く日本)カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンやベンチマークであるMSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)を多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ <DC>海外株式オープン	2001/12/07	176	28.8	16.0	13.2	8.1	5.3	1.93
外国株式・世界型(除く日本) カテゴリ平均			40.4	19.2	18.2	12.5	7.5	0.89
MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)			43.5	21.1	19.8	14.0	8.8	

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※外国株式・世界型(除く日本)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)は、外国株式市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドのベンチマークです。指数については巻末の【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

04 外国株式・世界型 (除く日本、円ヘッジ)

対象ファンド数 当社4ファンド／業界全体38ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド4本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
19.0	4.7	8.9	6.6	0.81

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本を除く世界の主要先進国の株式を主な投資対象とし、原則として為替ヘッジを行う。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	つみたて先進国株式(為替ヘッジあり)	2017/08/16	20	■
2	ヘッジ付先進国株式インデックスオープン	2014/06/27	9	■
3	ヘッジ付先進国株式インデックス・オープン(ラップ向け)	2022/01/27	23	■
4	ラップ向けインデックス f 先進国株式(為替ヘッジあり)	2022/01/06	132	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・世界型(除く日本、円ヘッジ)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

05 外国株式・北米型

対象ファンド数 当社20ファンド／業界全体249ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド20本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド1本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
44.9	19.6	17.9	12.6	1.15

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

米国を中心にカナダを含む北米企業の株式を主な投資対象とする。

当社ファンド一覧(網掛けは要改善ファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	eMAXIS NASDAQ100インデックス	2021/01/29	1,014	■
2	eMAXIS NYダウインデックス	2013/08/07	591	■
3	eMAXIS S&P500インデックス	2020/12/14	641	■
4	eMAXIS S&P500クオリティ高配当インデックス	2023/01/12	40	■
5	eMAXIS Slim 全米株式	2023/09/15	96	■
6	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	2018/07/03	41,202	■
7	MAXIS NYダウ上場投信	2023/03/09	10	■
8	MAXISナスダック100上場投信	2021/02/24	195	■
9	MAXIS米国株式(S&P500)上場投信	2020/01/08	561	■
10	NYダウ・インデックスファンド(為替ヘッジなし)	2017/04/24	384	■
11	アメリカン・ニュー・ステージ・オープン	2011/11/01	92	■
12	次世代米国代表株ファンド(愛称:メジャー・リーダー)	2013/05/28	1,073	■
13	つみたて米国株式(S&P500)	2020/03/06	402	■
14	米国IPOニューステージ・ファンド<為替ヘッジなし>(資産成長型)	2019/11/15	188	■
15	米国IPOニューステージ・ファンド<為替ヘッジなし>(年2回決算型)	2019/11/15	60	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・北米型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額 (億円)	当社HP
16	米国エネルギーMLPオープン(毎月決算型)為替ヘッジなし(愛称:エネルギー・ラッシュ)	2013/06/28	137	■
17	三菱UFJ NASDAQオープン Bコース	1996/08/01	428	■
18	三菱UFJ 米国高配当株式プラス<為替ヘッジなし>(毎月決算型)(愛称:New アメリカン)	2013/06/28	45	■
19	三菱UFJ 米国配当成長株ファンド<為替アクティブヘッジ>(愛称:ザ・レジェンド)	2013/12/09	48	■
20	三菱UFJ 米国配当成長株ファンド<為替ヘッジなし>(愛称:ザ・レジェンド)	2013/12/09	381	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。
各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・北米型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

個別ファンドごとの改善に向けた取り組み

三菱UFJ 米国配当成長株ファンド<為替アクティブヘッジ> <愛称:ザ・レジェンド>

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

<https://www.am.mufg.jp/fund/260912.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- 原則として、S&P500配当貴族指数構成銘柄について、指数構成比率に応じて投資を行い、株式についてはS&P500配当貴族指数の値動きに連動する投資成果を目指します。
- 為替変動や市場全体のリスクの高まり、金利変動等を定量的に捉えて、為替ヘッジ比率を調整します。この調整により為替変動による影響の緩和や為替差益の獲得を目指します。原則として、為替ヘッジ比率は0%または約100%としますが、ヘッジ比率、定量分析の項目は将来変更される場合があります。
- 外国為替予約取引等の運用にあたっては、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドに運用の指図に関する権限を委託します。

2 投資成果(運用成績)の悪化要因

- 下表に記載の運用期間において、カテゴリ平均や参考指数であるS&P500配当貴族指数(配当込み、円換算ベース)を下回る投資成果となりました。
- 株式部分は参考指数に連動する投資成果を目指した運用を行っており、運用成績悪化の主たる要因は、為替アクティブヘッジ戦略の運用結果によるものです。
- 同一カテゴリに分類されるファンドの多くが為替ヘッジをせず運用している一方、対円で米ドル高となる中、為替変動や市場全体のリスクの高まり、金利変動等を定量的に捉えて対円で為替ヘッジを行ったことが、カテゴリ平均や参考指数のリターンを下回った主な要因となりました。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 為替アクティブヘッジ戦略について、市場局面ごとの有効性やヘッジ判断にかかる定量分析の検証を行いながら、戦略の有効性向上に向けて取り得る方策について検討を続けています。
- 今後もパフォーマンスの改善を目指し、商品性の見直しも含めた検討を行い、ファンドの提供価値の向上に努めてまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、外国株式・北米型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンや参考指数であるS&P500配当貴族指数(配当込み、円換算ベース)を多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
三菱UFJ 米国配当成長株ファンド<為替アクティブヘッジ>	2013/12/09	48	20.4	7.8	9.0	8.8	8.5	1.39
外国株式・北米型 カテゴリ平均			44.9	19.6	17.9	12.6	13.0	1.15
S&P500配当貴族指数(配当込み、円換算ベース)			30.3	19.0	17.5	14.9	14.6	

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮していません。

※外国株式・北米型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※S&P500配当貴族指数(配当込み、円換算ベース)は、外国株式市場の値動きをご説明するために記載しており、当ファンドの参考指数です。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

06 外国株式・北米型(円ヘッジ)

対象ファンド数 当社10ファンド/業界全体81ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド10本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
23.1	5.2	8.8	6.6	1.41

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

米国を中心にカナダを含む北米企業の株式を主な投資対象とし、原則として為替ヘッジを行う。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	MAXIS NYダウ上場投信(為替ヘッジあり)	2023/03/09	28	■
2	MAXIS ナスダック100上場投信(為替ヘッジあり)	2021/02/24	65	■
3	MAXIS 米国株式(S & P 500)上場投信(為替ヘッジあり)	2021/02/24	328	■
4	NYダウ・インデックスファンド(為替ヘッジあり)	2017/04/24	53	■
5	次世代米国代表株ファンド(為替ヘッジあり)(愛称:メジャー・リーダー(ヘッジあり))	2016/12/07	15	■
6	米国IPOニュースステージ・ファンド<為替ヘッジあり>(資産成長型)	2019/11/15	63	■
7	米国IPOニュースステージ・ファンド<為替ヘッジあり>(年2回決算型)	2019/11/15	21	■
8	米国エネルギーMLPオープン(毎月決算型) 為替ヘッジあり(愛称:エネルギー・ラッシュ)	2013/06/28	17	■
9	三菱UFJ NASDAQオープン Aコース	1996/08/01	123	■
10	三菱UFJ 米国高配当株式プラス<為替ヘッジあり>(毎月決算型)(愛称:New アメリカン)	2013/06/28	2	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・北米型(円ヘッジ) カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます

07 外国株式・新興国型(複数国/地域)

対象ファンド数 当社9ファンド/業界全体114ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド9本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
20.4	3.7	7.3	5.8	1.45

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

新興国(ラテンアメリカ、東欧、アフリカ、中東、および一部のアジア地域)の複数国の株式を主な投資対象とする。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	eMAXIS Slim 新興国株式インデックス	2017/07/31	1,465	■
2	eMAXIS 新興国株式インデックス	2009/10/28	383	■
3	エマージング株式オープン	2007/12/14	59	■
4	新興国株式インデックスオープン	2010/06/21	16	■
5	新興国株式インデックス・オープン(ラップ向け)	2019/12/16	118	■
6	つみたて新興国株式	2017/08/16	322	■
7	テンプレートン新興国小型株ファンド(愛称:ライジング・フォース)	2017/08/31	26	■
8	三菱UFJ DC 新興国株式インデックスファンド	2009/12/11	628	■
9	ラップ向けインデックス f 新興国株式	2021/04/16	38	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・新興国型(複数国/地域)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

08 外国株式・新興国型・アジア

対象ファンド数 当社3ファンド／業界全体56ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド3本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
16.4	3.7	7.1	6.2	2.26

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

アジアの新興国の株式を主な投資対象とする。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	eMAXIS 日経アジア300インベスタブル・インデックス	2018/01/26	17	■
2	アセアン真成長株式ファンド	2014/08/18	14	■
3	日経アジア300インベスタブル・アクティブ・ファンド(愛称:アジア・リーダー)	2018/01/19	3	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・新興国型・アジアカテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

09 外国株式・中国圏型

対象ファンド数 当社3ファンド／業界全体56ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド3本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
▲10.7	▲10.7	0.5	5.3	1.87

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

中国本土を中心に、香港や台湾など中国圏の企業の株式を主な投資対象とする。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	MAXIS Hua An 中国株式(上海180A株) 上場投信	2019/06/10	8	■
2	チャイナ・イノベーション・オープン	2018/10/09	4	■
3	三菱UFJ チャイナオープン	1996/10/01	47	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・中国圏型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

10 外国株式・インド型

対象ファンド数 当社1ファンド/業界全体40ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド1本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
50.1	22.4	16.9	13.6	2.17

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

インド企業の株式を主な投資対象とする。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	eMAXIS インド株式インデックス	2024/02/22	109	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・インド型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

11 外国株式・その他

対象ファンド数 当社4ファンド/業界全体98ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド4本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
26.7	15.9	10.9	6.5	1.99

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

世界の株式を主な投資対象とするものの、他の外国株式のカテゴリに該当しないポートフォリオに適用される。例として為替オーバーレイやカバードコールなど様々な投資戦略を同時に活用しているファンドなどが挙げられる。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	ビルドアップ型 ベイリー・ギフォード インパクト投資ファンド2021-04(限定追加型) (愛称:ビルドアップ型 ポジティブ・チェンジ)	2021/04/06	14	■
2	米国株式シグナルチェンジ戦略ファンド(為替ヘッジあり)(愛称:クォーターバック)	2019/11/29	88	■
3	米国株式シグナルチェンジ戦略ファンド(為替ヘッジなし)(愛称:クォーターバック)	2019/11/29	263	■
4	米国株式トレンド・ウォッチ戦略ファンド	2021/05/14	1	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国株式・その他カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

12 外国REIT・世界型

対象ファンド数 当社14ファンド/業界全体113ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド14本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド3本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
23.7	10.9	7.3	7.2	1.10

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本を含む世界各国のREIT(不動産投資信託)を主な投資対象とする。

当社ファンド一覧(網掛けは要改善ファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	<DC>次世代REITオープン	2022/10/28	0.01	■
2	eMAXIS Slim 先進国リートインデックス	2019/10/31	275	■
3	eMAXIS 新興国リートインデックス	2013/11/18	36	■
4	eMAXIS 先進国リートインデックス	2009/10/28	158	■
5	グローバル・リート・アクティブファンド(ラップ向け)	2020/12/18	179	■
6	次世代REITオープン<資産成長型>(為替ヘッジなし)	2020/02/14	163	■
7	次世代REITオープン<毎月決算型>(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型	2020/02/14	128	■
8	三菱UFJ <DC>先進国REITインデックスファンド	2012/01/10	88	■
9	三菱UFJ 欧豪リートファンド(毎月決算型)	2007/06/13	22	■
10	三菱UFJ 先進国リートインデックスファンド	2020/04/27	3	■
11	ラップ向けインデックス f 先進国リート	2021/04/16	25	■
12	ワールド・リート・オープン(1年決算型)	2008/11/04	8	■
13	ワールド・リート・オープン(資産成長型)〈愛称:ワールド・リートN〉	2013/12/11	10	■
14	ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2004/07/02	1,077	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国REIT・世界型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

ワールド・リート・オープン (毎月決算型) / (資産成長型) / (1年決算型)

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/149024.html> / <https://www.am.mufg.jp/fund/148155.html> / <https://www.am.mufg.jp/fund/149027.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- 世界各国の上場不動産投資信託(リート)に分散投資します。
- MSIMグループ(モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・グループ)の運用ノウハウを活用します。
- ポートフォリオの構築は、トップダウンで国や地域、セクター配分等を決定し、ボトムアップで個別銘柄を選定するという、2つのアプローチ(運用手法)の融合によって行います。
- 相対的に割安で好配当が期待される銘柄に投資し、安定した配当利回りの確保と、値上がり益の獲得を目指します。
- 原則として、為替ヘッジは行いません。

2 投資成果(運用成績)の悪化要因

- 2017年から2020年にかけて、高い成長が期待されるデータセンターなどのグロースセクターが市場を牽引する中、配当利回り水準や保有資産価値に対する割安度に着目した運用を行っていたことで、過去5年、過去10年等でカテゴリ平均リターンを下回りました。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 2020年第1四半期に、配当利回りを過度に重視した運用を見直し、トータルリターンをより重視した運用を行う方針を定めました。
- 2021年1月に運用主担当者が交代しました。新しい運用主担当者は運用プロセスを一部改善し、グロース性指標をより考慮した運用を行っています。また、2022年にかけて運用主担当者のもと、アナリストの変更等、運用体制の再構築を行いました。
- 過去1年のパフォーマンスは、銘柄選択効果が奏功したことで改善傾向にあると考えています。今後もMSIMグループと密にコミュニケーションを取り、運用クオリティの向上への取り組みを継続してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、外国REIT・世界型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを過去1年は上回っておりますが、過去3年、過去5年、過去10年、設定来では下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
ワールド・リート・オープン(毎月決算型)	2004/07/02	1,077	24.5	10.0	3.7	4.8	4.9	1.72
ワールド・リート・オープン(資産成長型)	2013/12/11	10	24.5	10.0	3.7	4.8	5.2	1.73
ワールド・リート・オープン(1年決算型)	2008/11/04	8	24.5	10.0	3.7	4.8	7.7	1.73
外国REIT・世界型 カテゴリ平均			23.7	10.9	7.3	7.2	5.9	1.10

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点として計算しており、カテゴリ平均リターンは「ワールド・リート・オープン(毎月決算型)」の設定日の前営業日を起点として計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※外国REIT・世界型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

13 外国REIT・世界型(円ヘッジ)

対象ファンド数 当社5ファンド/業界全体33ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド5本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド2本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
3.9	▲2.5	▲1.1	3.4	1.17

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

日本を含む世界各国のREIT(不動産投資信託)を主な投資対象とし、原則として為替ヘッジを行う。

当社ファンド一覧(網掛けは要改善ファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	次世代REITオープン<資産成長型>(為替ヘッジあり)	2020/02/14	21	■
2	次世代REITオープン<毎月決算型>(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型	2020/02/14	11	■
3	ラップ向けインデックス f 先進国リート(為替ヘッジあり)	2022/01/06	0.01	■
4	ワールド・リート・オープン(資産成長型) 為替ヘッジあり(愛称:ワールド・リートヘッジN)	2017/09/12	0.5	■
5	ワールド・リート・オープン(毎月決算型) 為替ヘッジあり	2017/01/20	1	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国REIT・世界型(円ヘッジ)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

ワールド・リート・オープン (毎月決算型) 為替ヘッジあり / (資産成長型) 為替ヘッジあり

以下URL(当社ホームページ)の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/261493.html> / <https://www.am.mufg.jp/fund/261699.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- 世界各国の上場不動産投資信託(リート)に分散投資します。
- MSIMグループ(モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・グループ)の運用ノウハウを活用します。
- ポートフォリオの構築は、トップダウンで国や地域、セクター配分等を決定し、ボトムアップで個別銘柄を選定するという、2つのアプローチ(運用手法)の融合によって行います。
- 相対的に割安で好配当が期待される銘柄に投資し、安定した配当利回りの確保と、値上がり益の獲得を目指します。
- 原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。

2 投資成果(運用成績)の悪化要因

- 2017年から2020年にかけて、高い成長が期待されるデータセンターなどのグロースセクターが市場を牽引する中、配当利回り水準や保有資産価値に対する割安度に着目した運用を行っていたことで、過去5年等でカテゴリ平均リターンを下回りました。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 2020年第1四半期に、配当利回りを過度に重視した運用を見直し、トータルリターンをより重視した運用を行う方針を定めました。
- 2021年1月に運用主担当者が交代しました。新しい運用主担当者は運用プロセスを一部改善し、グロース性指標をより考慮した運用を行っています。また、2022年にかけて運用主担当者のもと、アナリストの変更等、運用体制の再構築を行いました。
- 過去1年のパフォーマンスは、銘柄選択効果が奏功したことで改善傾向にあると考えています。今後もMSIMグループと密にコミュニケーションを取り、運用クオリティの向上への取り組みを継続してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、外国REIT・世界型(円ヘッジ)カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを過去1年、過去3年は上回っておりますが、過去5年では下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン(%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
ワールド・リート・オープン(毎月決算型)為替ヘッジあり	2017/01/20	1	5.8	▲1.9	▲3.6	—	▲2.2	1.72
ワールド・リート・オープン(資産成長型)為替ヘッジあり	2017/09/12	0.5	5.8	▲1.9	▲3.6	—	▲2.5	1.73
外国REIT・世界型(円ヘッジ) カテゴリ平均			3.9	▲2.5	▲1.1	3.4	0.6	1.17

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しており、カテゴリ平均リターンは「ワールド・リート・オープン(毎月決算型)為替ヘッジあり」の設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮しておりません。

※外国REIT・世界型(円ヘッジ)カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売買の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

14 外国REIT・特定地域/国型

対象ファンド数 当社7ファンド/業界全体38ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド7本のうち、競合他社比劣後しているファンドについて、パフォーマンスの要因やコスト対比リターン、商品性など多角的な分析を行った結果、要改善ファンドに該当すると判断したファンド2本について次ページ以降で詳細をご報告いたします。
- なお、その他(要改善ファンド以外)のファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
15.4	5.9	3.9	6.6	1.69

出所:Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

外国の単一国または単一地域のREIT(不動産投資信託)を主な投資対象とする。

当社ファンド一覧(網掛けは要改善ファンド)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	eMAXIS 欧州リートインデックス	2016/01/29	5	■
2	eMAXIS 豪州リートインデックス	2016/01/29	8	■
3	アジア・パシフィック・セレクト・リート・ファンド(毎月決算型)(愛称:グッド・ロケーション)	2015/07/31	28	■
4	オーストラリア・リート・オープン(毎月決算型)	2004/11/19	25	■
5	国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型)円コース(毎月決算型)	2013/09/20	14	■
6	国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型)為替ヘッジなしコース(毎月決算型)	2013/09/20	73	■
7	三菱UFJ/マッコーリー オーストラリアREITファンド<為替ヘッジなし>(毎月決算型)(愛称:コアランド)	2015/03/20	2	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。

各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国REIT・特定地域/国型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

国際 アジア・リート・ファンド (通貨選択型) 円コース (毎月決算型) / 為替ヘッジなしコース (毎月決算型)

以下URL (当社ホームページ) の個別ファンドページ内に、当該ファンドの投資信託説明書 (交付目論見書) および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。当該ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。
<https://www.am.mufg.jp/fund/148120.html> / <https://www.am.mufg.jp/fund/148119.html>

1 ファンドの概要 (市況動向および資金動向等により、下記の運用方針通りの運用が行えない場合があります。)

- アジア・リート・マスター・ファンド (ケイマン籍投資信託証券で、イーストスプリング・インベストメンツ (シンガポール) リミテッド (以下、イースト・スプリング社) が運用を行います。) への投資を通じて、主として日本を除くアジア諸国・地域の金融商品取引所に上場 (これに準ずるものを含みます。) している不動産投資信託 (リート) 等に投資を行います。また、マネー・プール マザーファンドへの投資も行います。
 - 不動産投資信託 (リート) 等の安定したインカムゲインの確保と、値上がり益の獲得を目指します。
 - 円コースは、原則として原資産 (投資を行うリート等) 通貨売り / 円買いの為替取引により対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。為替ヘッジなしコースは、原則として原資産通貨について為替取引を行いません。
- ※当ファンドは通貨選択型投資信託です。通貨選択型投資信託における収益に関する説明、運用の仕組み、収益又は損失の関係、販売手数料に関する事項の詳細は投資信託説明書 (交付目論見書) をご確認ください。

2 投資成果 (運用成績) の悪化要因

- 2019年から2021年にかけて、高い成長が期待されるデータセンターなどグロースセクターが市場を牽引する中、配当を重視し、割安度に着目した運用を行ったことが、投資先ファンドのパフォーマンス軟調の一因となりました。
- 円コースについては、同一カテゴリに分類されるファンドの多くが為替ヘッジをせず運用されており、対円で原資産通貨高となる中、当コースは原資産通貨売り / 円買いの為替取引により対円で為替ヘッジを行った結果、カテゴリ平均リターンを多くの期間で下回りました。

3 運用および商品性の改善に向けた取り組み状況

- 投資先ファンドの運用会社であるイーストスプリング社と協議を重ね、運用パフォーマンス向上のため以下のような改善への取り組みを実施しました。
 - ・2020年第2四半期から第3四半期: 割安度への過度な偏りを見直し、グロース性指標も考慮。
 - ・2021年第3四半期: 運用主担当者が交代。それに加えて、トータルリターンの最大化を図るため、株式運用部門において従来運用を担当していたインカムチームとグロースチームを統合し、より多面的な視点を導入。
- 過去1年は対円で原資産通貨高となる中、円コースは原則として原資産通貨売り / 円買いの為替取引により対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ったことなどからカテゴリ平均リターンを下回りました。しかしながら、上記、改善に向けた取り組みの結果、投資先ファンドのパフォーマンスは改善傾向にあると考えています。引き続き、運用クオリティの向上に向けた取り組みを継続してまいります。

パフォーマンスと運用コスト

- 当ファンドは、外国REIT・特定地域/国型カテゴリに属します。同カテゴリ平均リターンを多くの期間で下回る状況です。
- コストは、同カテゴリ平均値を上回る水準です。

	設定日	純資産 総額 (億円)	リターン (%)					コスト (%)
			過去1年	過去3年 (年率)	過去5年 (年率)	過去10年 (年率)	設定来 (年率)	
円コース (毎月決算型)	2013/09/20	14	▲14.1	▲10.8	▲8.1	▲0.6	▲0.7	2.09
為替ヘッジなしコース (毎月決算型)	2013/09/20	73	1.4	2.0	0.6	5.4	5.3	2.09
外国REIT・特定地域/国型 カテゴリ平均			15.4	5.9	3.9	6.6	6.7	1.69

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※設定来リターンはファンド設定日の前営業日を起点に計算しております。コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額 (原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く) より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。なお、リターンは税金を考慮していません。

※外国REIT・特定地域/国型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

※当社では要改善ファンドを特定するためのファンド提供価値の評価要素の一つとして、当社ファンドと同じカテゴリに所属するファンドとのコスト控除後のリターンについて、相対的な順位を確認しております。カテゴリの平均リターンおよび平均コストは相対的な順位のご参考としてお示ししているもので、当ファンドとカテゴリ内の他ファンドとのパフォーマンスの優劣を示したり、当ファンド売上の推奨もしくは勧誘等を目的とするものではありません。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

15 外国REIT・米国型

対象ファンド数 当社1ファンド／業界全体35ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド1本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
25.2	12.9	9.0	9.4	1.46

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

米国のREIT(不動産投資信託)を主な投資対象とする。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	eMAXIS 米国リートインデックス	2016/01/29	24	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国REIT・米国型カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

16 外国REIT・その他

対象ファンド数 当社3ファンド／業界全体34ファンド

カテゴリの運用状況について

- 当カテゴリに属する当社ファンド3本については、要改善ファンドに該当するとの判断には至りませんでした。
- なお、当該ファンドにつきましても、引き続きお客さま本位の姿勢に徹し、確固たる運用哲学とプロダクトガバナンス・ポリシーに基づき、クオリティの高い運用・商品・サービスを安定的かつ継続的に提供出来るよう努めてまいります。
(個別ファンドの運用状況については当社ホームページ内の各ファンドページをご覧ください)

カテゴリの平均リターンと平均コスト

リターン(%)				コスト(%)
過去1年	過去3年(年率)	過去5年(年率)	過去10年(年率)	
23.4	11.0	5.7	5.2	2.05

出所: Morningstar Directのデータを基に三菱UFJアセットマネジメントが作成

※業界全体の公募投資信託およびETFの中で、当該カテゴリに属するファンドより単純平均値を算出しております。

※コストは、直近の決算時の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税除く)より算出した総経費率を使用しております。ただし、初回決算を迎えていない等の理由から総経費率のデータがないファンドは、信託報酬率を使用しております。

カテゴリの定義

世界のREIT(不動産投資信託)に投資するものの、他の外国REITのカテゴリに該当しないポートフォリオに適用される。例として為替オーバーレイやカバードコールなど様々な投資戦略を同時に活用しているファンドなどが挙げられる。

当社ファンド一覧(要改善ファンドへの該当はなし)

No.	ファンド名(アルファベット順および五十音順)	設定日	純資産総額(億円)	当社HP
1	国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型) インドネシア・ルピアコース(毎月決算型)	2013/09/20	7	■
2	国際 アジア・リート・ファンド(通貨選択型) インド・ルピーコース(毎月決算型)	2013/09/20	227	■
3	三菱UFJ/マッコーリー オーストラリアREITファンド<Wプレミアム>(毎月決算型)(愛称:コアランド)	2015/03/20	11	■

※当社ホームページの個別ファンドページ内に、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)および、リスクと費用に関する記載箇所へのリンクがございます。各ファンドの商品性、投資リスク、費用等についてはそちらをご確認ください。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※外国REIT・その他カテゴリに関する著作権、知的財産権等一切の権利はMorningstarに帰属し、複製、転載、引用することを禁じます。

当資料に関するご留意事項等

当資料に関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、三菱UFJアセットマネジメントのプロダクトガバナンス活動に関して当社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料は勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。販売会社は当社ホームページでご確認いただけます。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。

当資料で使用する指数について

- MSCIコクサイ・インデックス:MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

モーニングスター・カテゴリについて

©2024 Morningstar. All Rights Reserved. ここに含まれる情報は、(1) Morningstarおよび/またはその関連会社またはコンテンツ提供者の専有財産であり、(2) 複製、改作または配布してはならず、(3) 正確性、完全性または適時性を保証するものではなく、(4) 投資、税務、法務あるいはその他を問わず、いかなる助言を構成するものではありません。ユーザーは、この情報の使用が、適用されるすべての法律、規制、および制限に準拠していることを確認する責任を単独で負います。Morningstarおよびそのコンテンツ提供者のいずれも、この情報の使用から生ずるいかなる損害または損失についても責任を負いません。過去の実績は将来の結果を保証するものではありません。

設定・運用

三菱UFJアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会/一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

三菱UFJアセットマネジメントのお問い合わせ先

お客さま専用フリーダイヤル **0120-151034** ホームページアドレス <https://www.am.mufg.jp/>
(受付時間/営業日の9:00~17:00)